

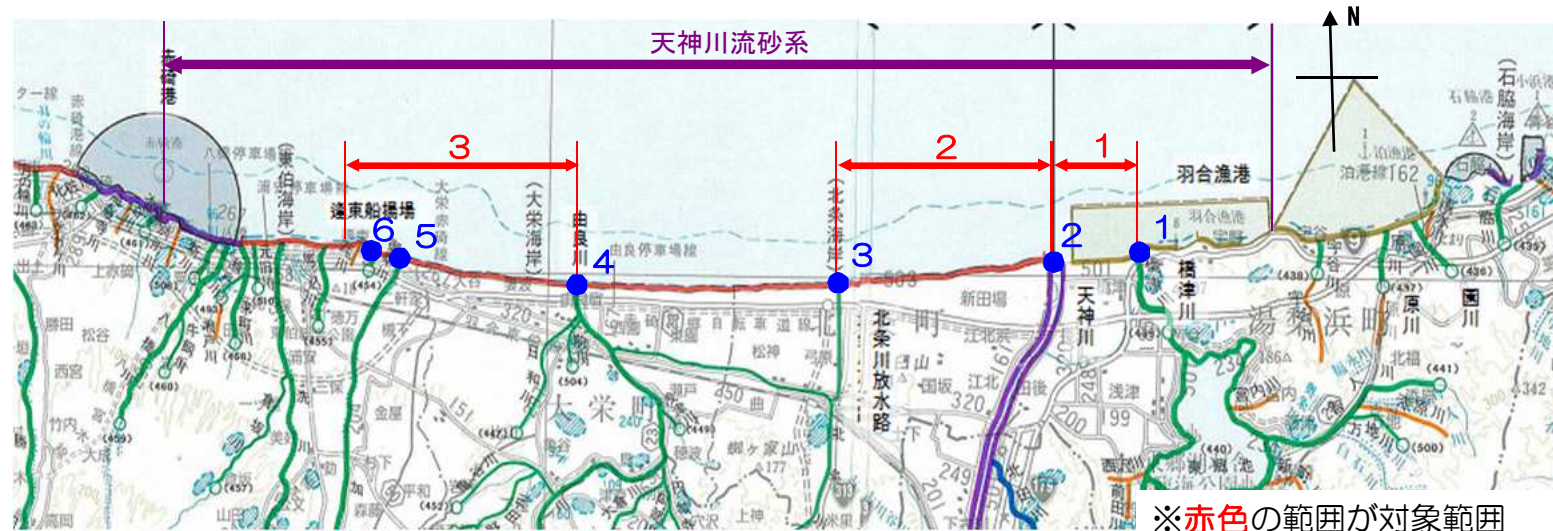
令和2年度
鳥取沿岸土砂管理連絡調整会議(中部地区)
〈要旨〉

R1年5月撮影



鳥 取 県

中部沿岸の対象範囲について

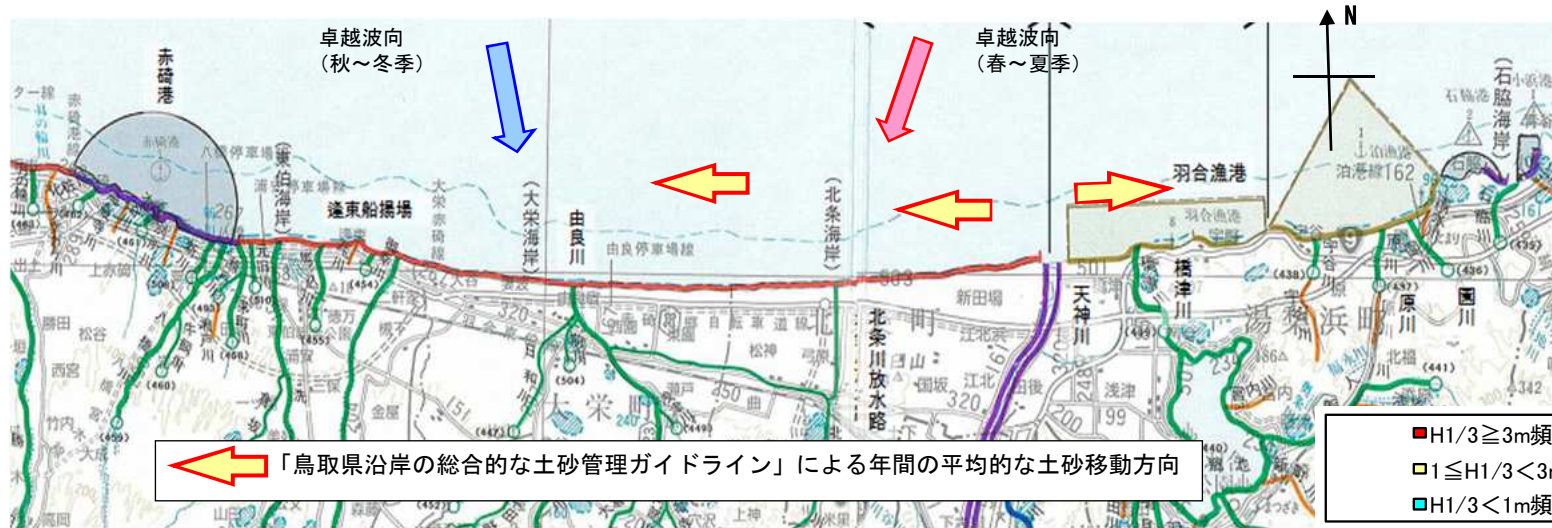


※赤色の範囲が対象範囲

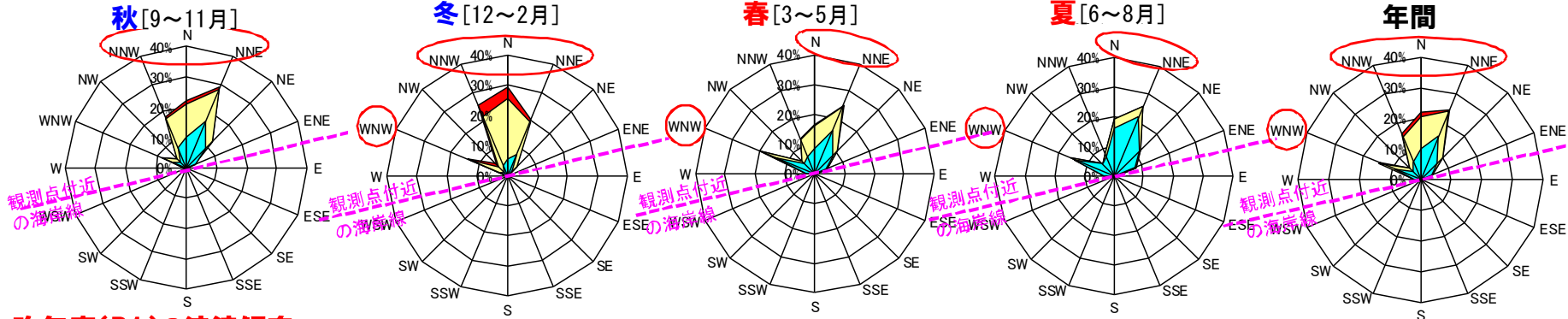
※紫色の範囲は、ガイドライン対象範囲

海岸				河川				港湾・漁港			
名称	管理者	種別	実施事業	名称	管理者	種別	実施事業	名称	管理者	種別	実施事業
1	天神川右岸地区	湯梨浜町	建設保全海岸 汀線・深淺測量 サンドリサイクル	1	橋津川	鳥取県	二級河川 河口掘削	-	-	-	-
2	天神川左岸地区	鳥取県	建設保全海岸 汀線・深淺測量 サンドリサイクル リーフ整備	2	天神川	国土交通省	一級河川 河床掘削	-	-	-	-
				3	北条川放水路	鳥取県	二級河川 河口浚渫	-	-	-	-
3	由良川左岸地区	鳥取県	建設保全海岸 汀線・深淺測量 サンドリサイクル	4	由良川	鳥取県	二級河川 河口掘削	-	-	-	-
				5	加勢蛇川	鳥取県	二級河川	-	-	-	-
				6	御幸川	鳥取県	二級河川	-	-	-	-

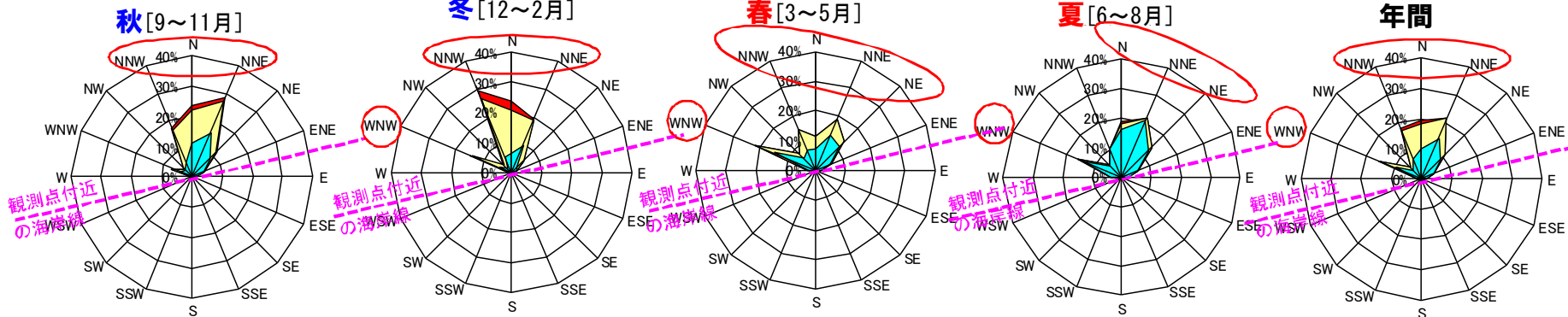
対象範囲の波浪・漂砂移動について



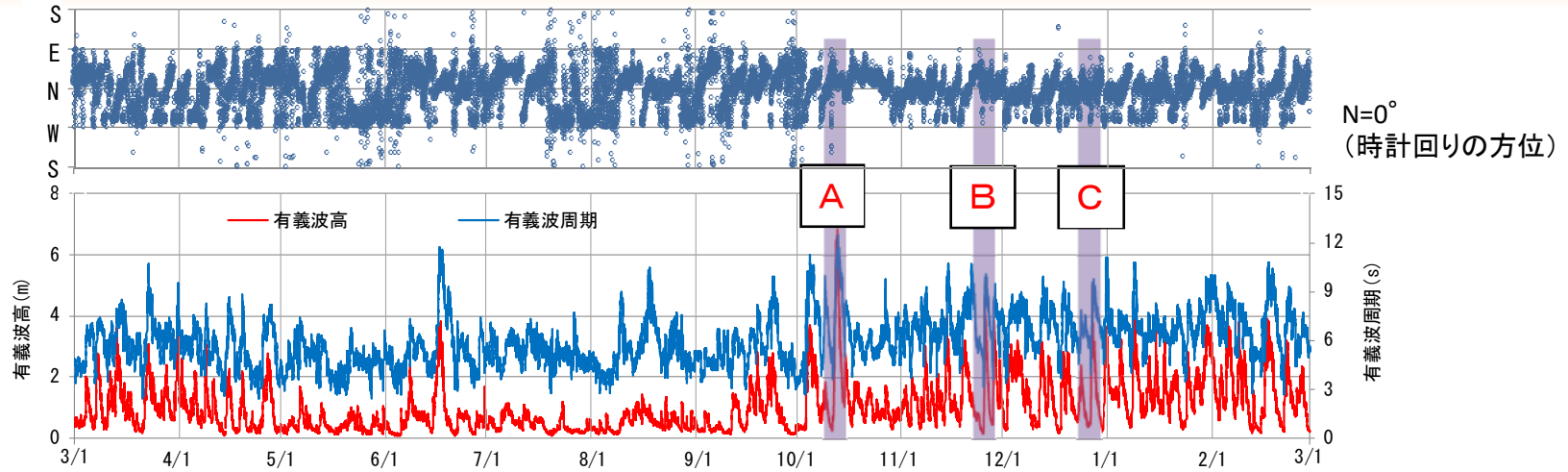
近年波浪(H15～R1)の傾向



昨年度(R1)の波浪傾向

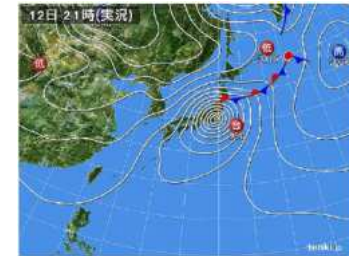
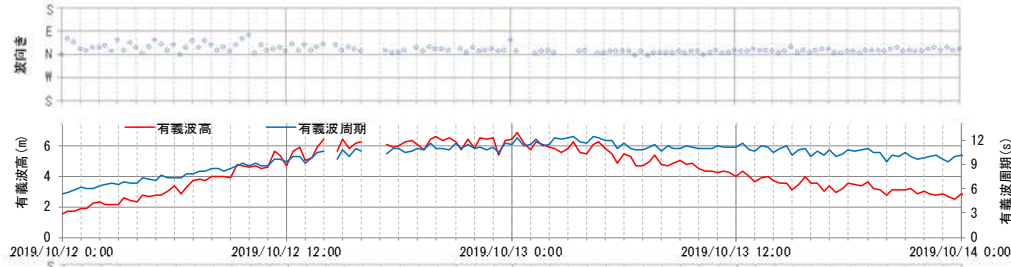


対象範囲の波高について 【令和元年度の襲来波浪】



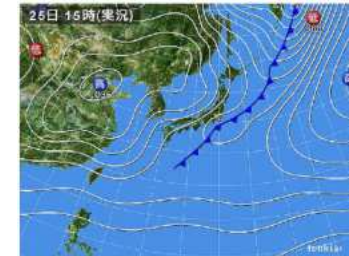
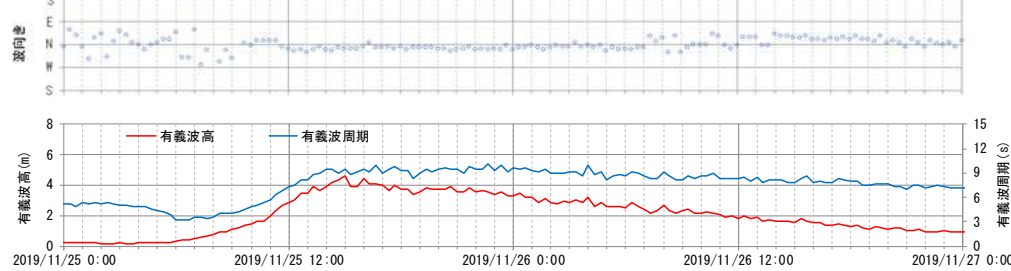
(台風19号)

A



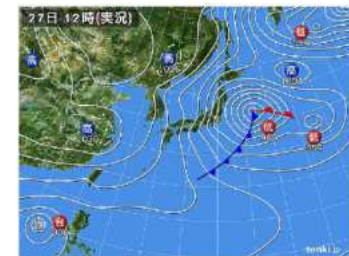
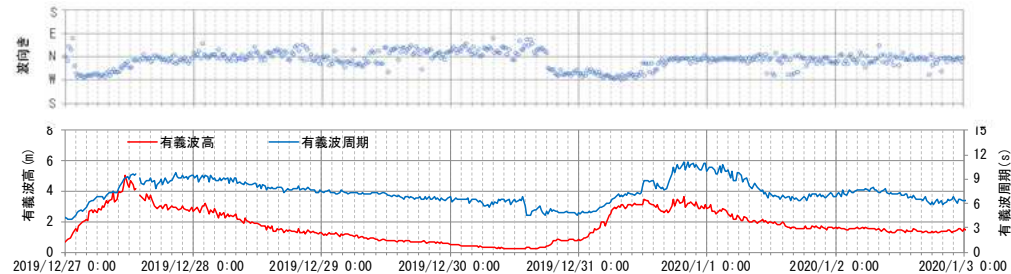
(冬季風浪)

B



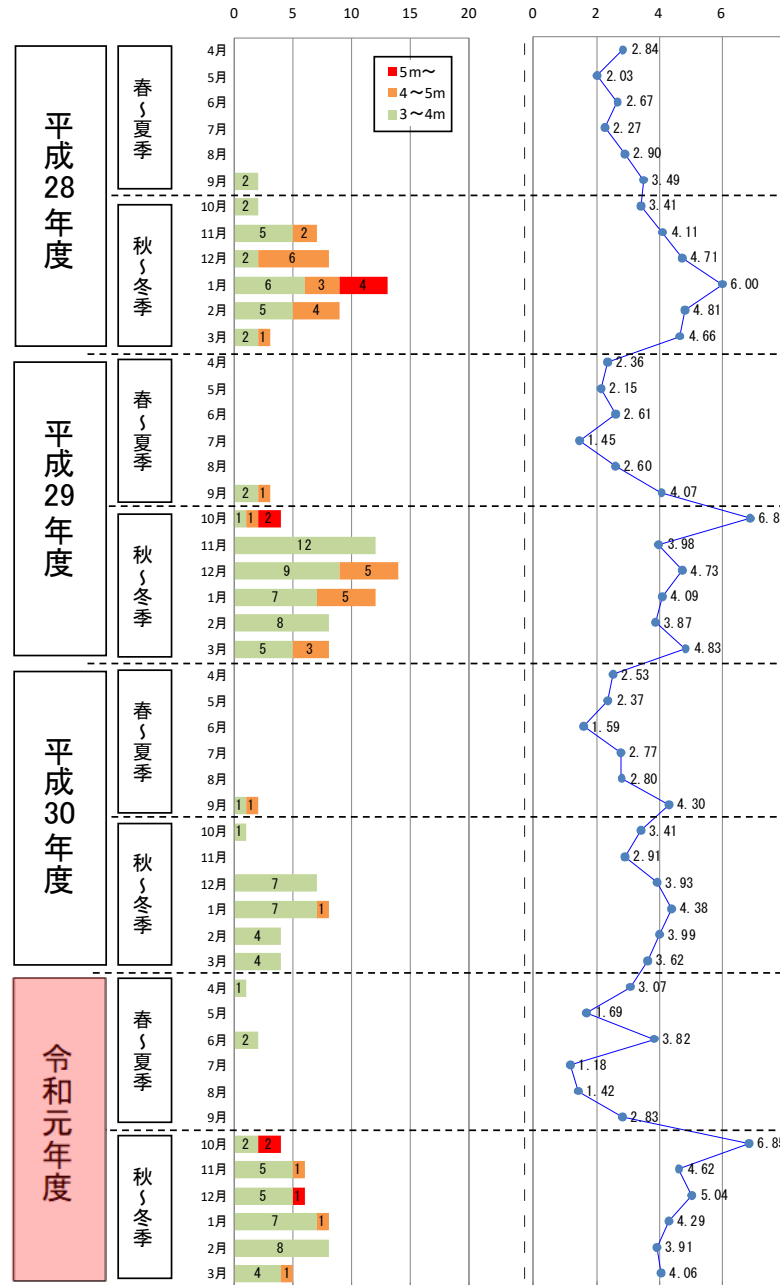
(冬季風浪)

C



対象範囲の波高について 【平成28年度～令和元年度の波高出現状況】

有義波高の発生回数(日数) 月最大 有義波高(m)



平成28年度
 ・春～夏季:9月に高波浪が発生。
 ・秋～冬季:他年度よりも4m以上の高波浪の発生回数が多い。有義波高の最大値は1月(冬季風浪)に発生。

平成29年度
 ・春～夏季:9月に高波浪が発生。
 ・秋～冬季:他年度よりも3m以上の高波浪の発生回数が多い。有義波高の最大値(10月(台風)に発生)が最も大きい。

平成30年度
 ・春～夏季:9月に高波浪が発生。
 ・秋～冬季:他年度よりも3m以上の高波浪の発生回数が少なく、有義波高の最大値(1月(冬季風浪)に発生)が最も小さい。

令和元年度
 ・春～夏季:4月と6月に高波浪が発生。7月～9月の波浪は他年度よりも穏やか。
 ・秋～冬季:平成30年度に次いで3m以上の高波浪の発生回数が少ない。有義波高の最大値は10月(台風)に発生。

①天神川左岸地区(天神川河口左岸～北条川放水路右岸)

R1年5月22日撮影



東郷池

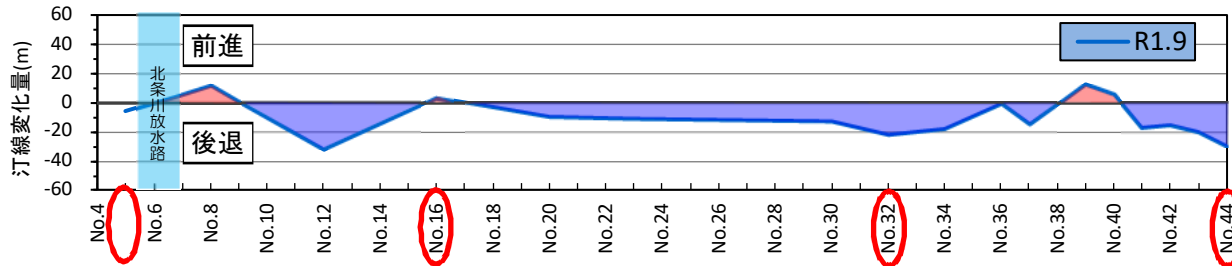
天神川

←はわい長瀬

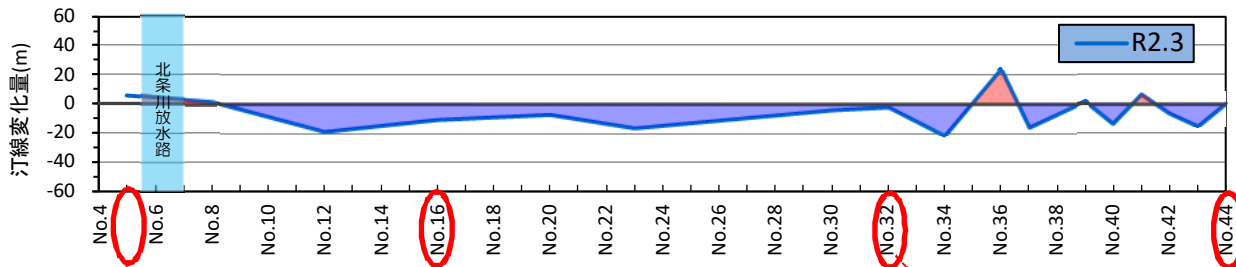
北条川放水路→

①天神川左岸地区(天神川河口左岸～北条川放水路右岸)

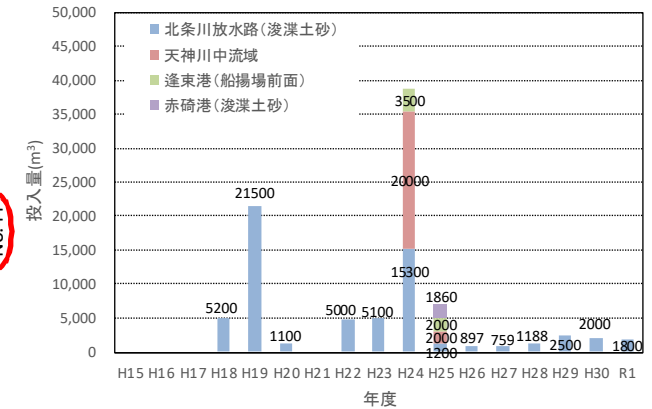
令和元年度 天神川左岸地区の長期汀線変化状況図(平成15年9月基準)



令和元年度 天神川左岸地区の長期汀線変化状況図(平成15年3月基準)



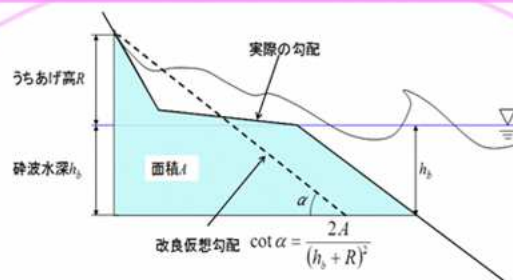
天神川左岸地区



基準となる平成15年の汀線はサンドリサイクル事業が実施される以前のもの。
※サンドリサイクル事業は平成18年から実施。



『防護』で必要な浜幅 ⇒ 25m



『環境』に適した浜幅 ⇒ 施工配慮



海浜に生息する動植物、「白砂青松の海岸」、
「山陰海岸国立公園」等の景勝地に影響のない
浜幅を検討。

越波防止の観点・過去の海岸侵食状況を考慮
して設定。
※越波防止に関しては「中村の仮想勾配法」に
よる波のうらあげ高を算出。

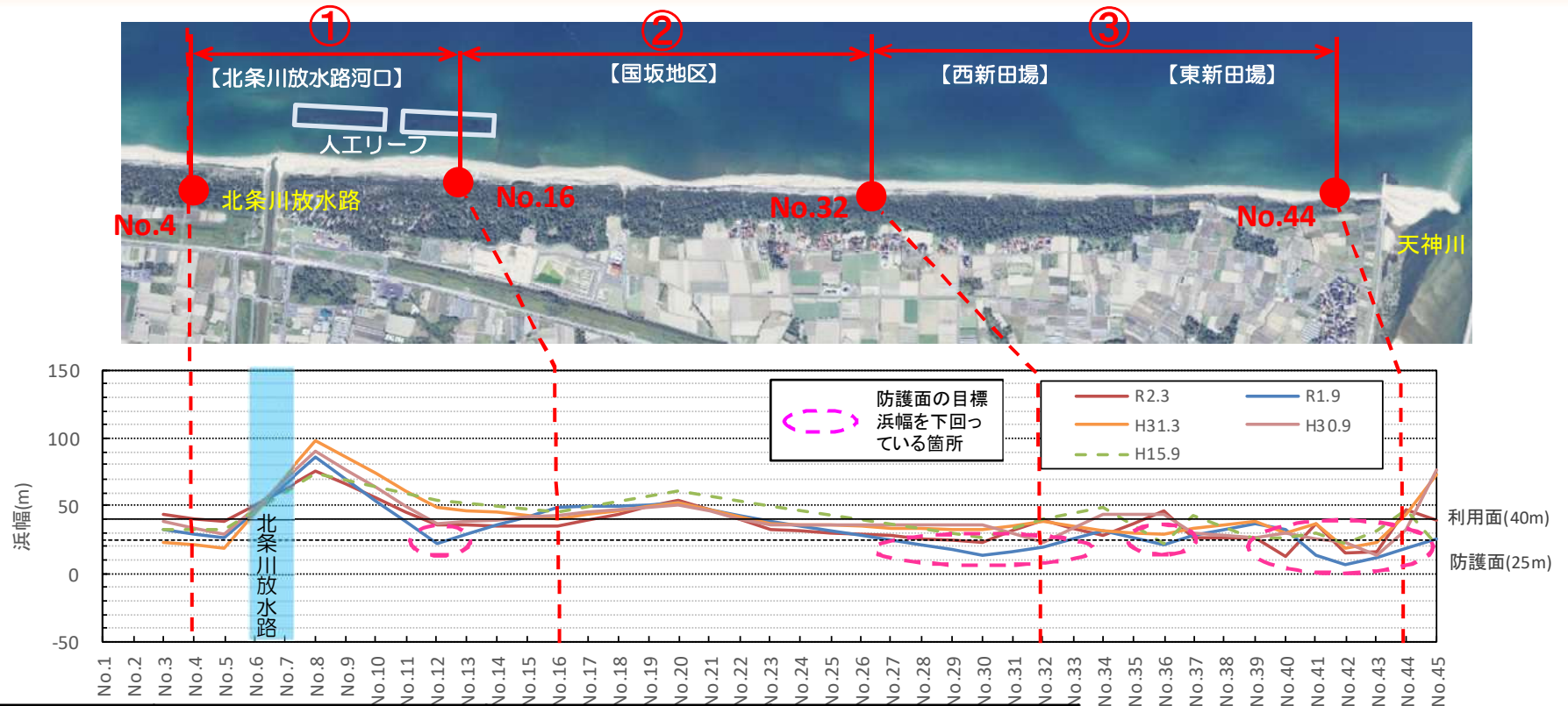
『利用』に適した浜幅 ⇒ 40m



海水浴場・地引網・キャンプ等の海浜レクリ
エーションで利用しやすい浜幅を検討。

「国土交通省港湾局監修(2005.10):ビーチ
計画・設計マニュアル(改訂版)」海水浴客の
海浜幅に対する評価より、40mと設定。

①天神川左岸地区(天神川河口左岸～北条川放水路右岸)



	① (北条川放水路河口)	② (国坂地区)	③ (西新田場～東新田場)
長期的な変化 (H15→R2)	サンドリサイクルにより安定傾向	人工リーフの東側で侵食傾向	東新田場で侵食傾向
過年度の対策 (H15～R1)	サンドリサイクル	リーフ整備(H15に整備完了) サンドリサイクル	サンドリサイクル
本年度の対策 (R2)	サンドリサイクル	—	サンドリサイクル(緊急対応)
短期的な変化 (H31→R2)	一時的な後退が見られる	西側は概ね安定傾向 東側において一時的な後退が見られる	東新田場において一時的な後退が見られる
来年度の対策予定 (R3)	サンドリサイクル	必要に応じサンドリサイクル	必要に応じサンドリサイクル

○ H15～R1年度 サンドリサイクル量92,904m³(年平均 5,465m³)、R1年度 1,800m³

- 利用(40m) ... 海水浴場としての利用はなし。
- 防護(25m) ... 国坂地区東側、東新場では、一時的な後退が見られる。

<対応方針>
引き続き北条川放水路のサンドリサイクルを実施する。
新田場と国坂地区については経過観察を行い、状況に応じてサンドリサイクルの実施を検討する。

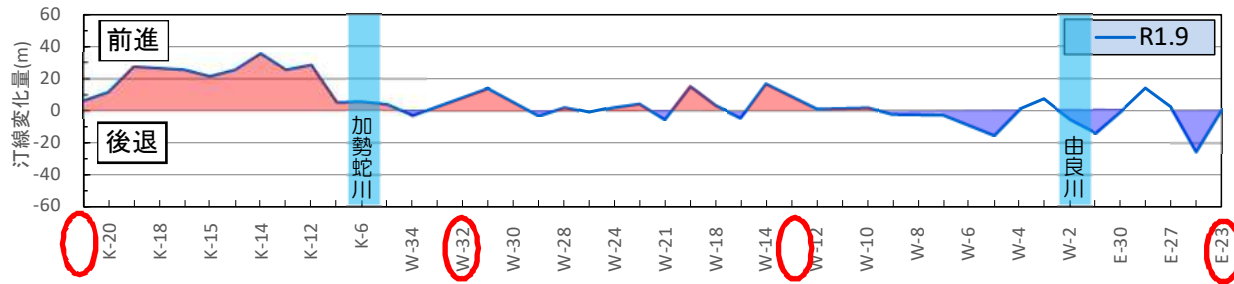
②由良川左岸地区(由良川河口～逢束船揚場)

R1年5月22日撮影

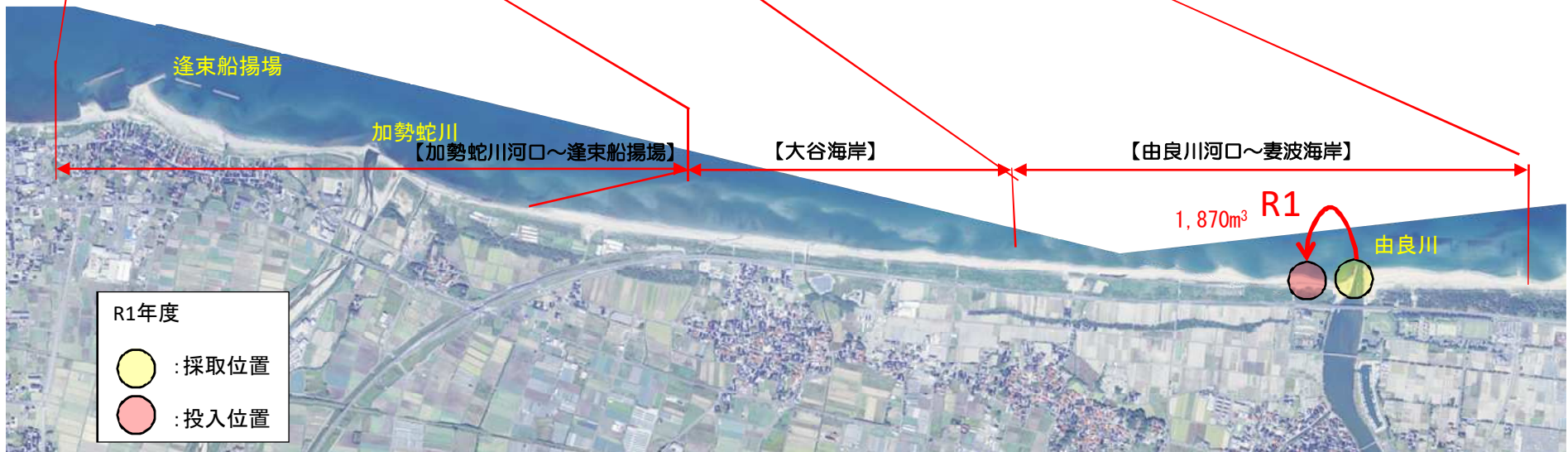
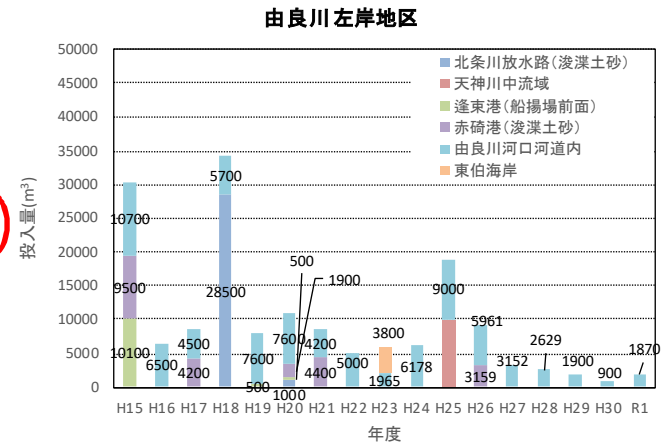
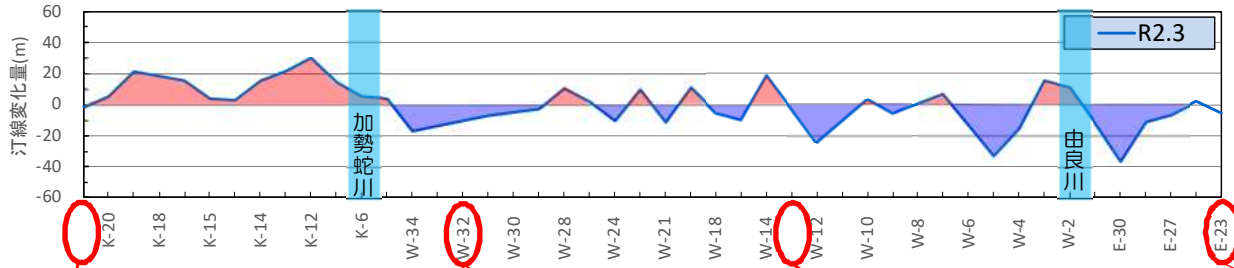


②由良川左岸地区(由良川河口～逢東船揚場)

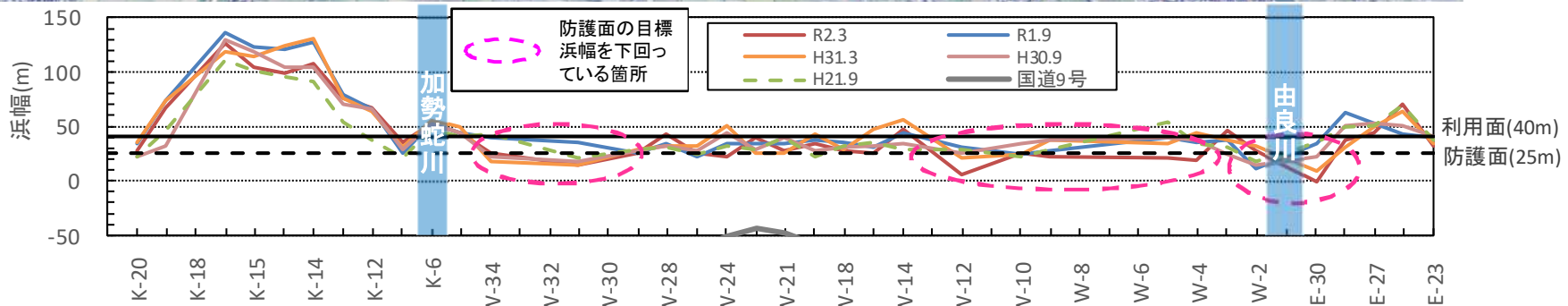
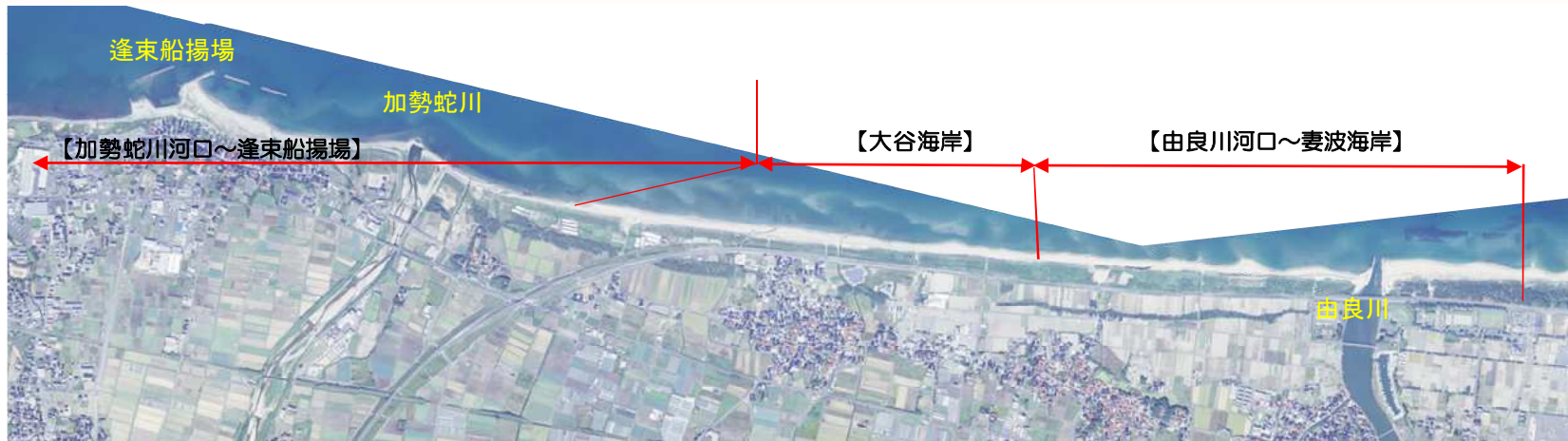
令和元年度 由良川左岸地区の長期汀線変化状況図(平成21年9月基準)



令和元年度 由良川左岸地区の長期汀線変化状況図(平成21年3月基準)



②由良川左岸地区(由良川河口～逢東船揚場)



	(加勢蛇川河口～逢東船揚場)	(大谷海岸)	(由良川河口～妻波海岸)
長期的な変化 (H15→R2)	土砂堆積があり汀線が前進傾向	季節毎の後退は見られるが、概ね安定している	西側で侵食傾向が見られる
過年度の対策 (H15～R1)	サンドリサイクル	サンドリサイクル	サンドリサイクル
本年度の対策 (R2)	—	—	サンドリサイクル
短期的な変化 (H31→R2)	大きな変動なし	大きな変動なし	西側において一時的な後退が見られる
来年度の対策予定 (R3)	必要に応じてサンドリサイクル	必要に応じてサンドリサイクル	サンドリサイクル
○ H15～R1年度 サンドリサイクル量162,914m ³ (年平均 9,583m ³)、R1年度 1,870m ³			

- 利用(40m)
 - ・・・海水浴場としての利用はなし。
- 防護(25m)
 - ・・・大谷海岸・由良川西側の一部で一時的な後退が見られる。

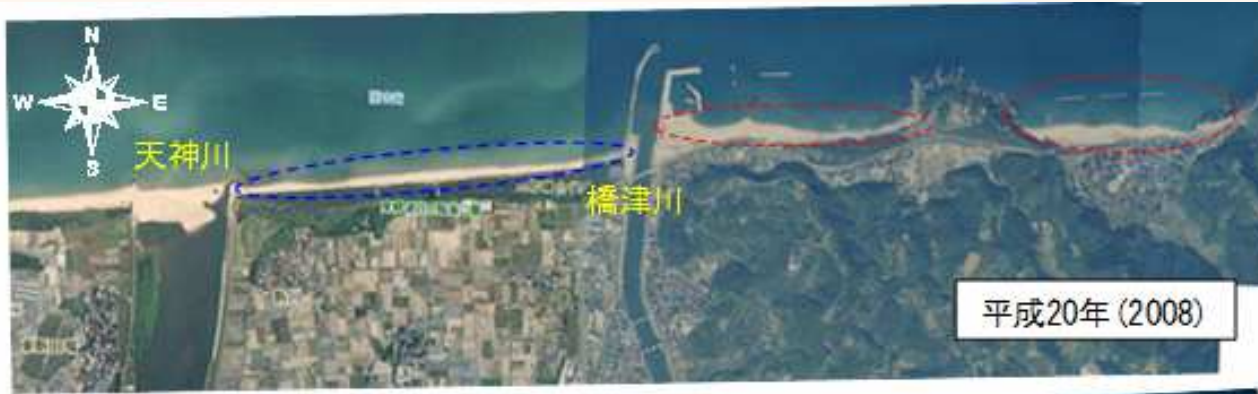
<対応方針>
 引き続き由良川河口のサンドリサイクルを実施する。
 防護目安を満たしていない箇所については、経過観察を行い、必要に応じてサンドリサイクルの実施を検討する。

③天神川右岸地区(天神川河口右岸～橋津川左岸)

R1年5月22日撮影

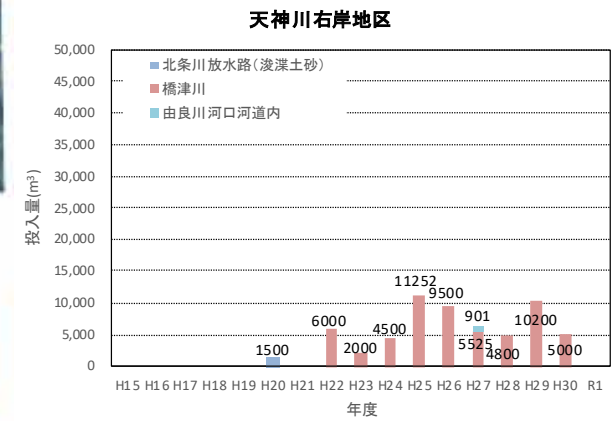


③天神川右岸地区(天神川河口右岸～橋津川左岸)



汀線後退区域

汀線前進・維持区域



H20 - H30比較 ※航空写真による

- 天神川河口の右岸(No.1～No.9)で海岸侵食が進行傾向にある。
- 橋津川右岸では堆積傾向